

梶山女学園大家政 ○山内 和子
小林 重喜

1. 天然汗と人工汗による試験結果の間に、しばしば大きな相異のあるのは、天然汗に含まれる比較的微量な成分に、基づくのではないかと考えられる。

われわれは数年来、汗の微量成分について実験を行ない、一昨年は、汗に含まれる黄色物質について一部を報告した。

今回は、汗に含まれるアミノ酸について、実験を行なった結果を報告する。

2. 汗の採取は、入浴により清浄にした体より出る汗を集め、冷蔵庫内に保管した。これを濾過し、ペーパークロマトグラフ法および薄層クロマトグラフ法により、アミノ酸の検索を行なった。

なお、汗には多量の塩分が含まれているので、これがアミノ酸の検出を妨害するのではないかと考えられる。このため、イオン交換樹脂法による脱塩を試みた。

3. 汗に含まれるアミノ酸は、クロマトグラフにあらわれた、各々のスポットの R_f に該当する、標準アミノ酸のスポットより検討すると、少なくとも4種類以上、12種類前後になるのではないかとと思われる。

なお、塩の影響については、ニンヒドリンにより発色させたときの色が、異なることが認められる。